



東京武蔵野多摩ワイズメンズクラブ

東京YMCA西東京センター内 〒186-0002東京都国立市東1-4-20-102
TEL 042-577-6181 FAX 042-577-5574

【2016～2017主題】

国際会長 Joan Wilson
アジア地域会長 Tung Ming Hsiao
東日本区理事 利根川 恵子
あずさ部長 浅羽 俊一郎
東京武蔵野多摩会長 山口 直樹

「Our Future begins Today」
「Respect Y's Movement」
「For the Future, Act Today!」
「あずさ部は賜物の宝庫。もっと活かそうぜ!」
「一歩一歩前に進もう。Yと共に!」

【クラブ役員】

会長 山口直樹
副会長 板村哲也
副会長 伊佐節子
会計 宮内友弥
書記 渡辺大輔

2017年
今月の聖句

人に惑わされないように気をつけなさい。(マルコによる福音書 13章5節)

ワイズメンズクラブモットー

強い義務感をもとう 義務は全ての権利に伴う

五つの誓い

- 1.自分を愛するように隣人を愛そう
- 1.青少年のためにYMCAに尽くそう
- 1.世界的視野をもって国際親善を図ろう
- 1.義務を果たしてこそ権利が生ずる事を悟ろう
- 1.会合には出席第一、社会には奉仕第一を旨としよう

ワイズメンズクラブの目的

- 1.個人的にもまたクラブとしても、その奉仕活動を通じてYMCAの活動を支援する。
- 2.ワイズメンにふさわしい他の団体を支援する。
- 3.地域社会や国際的な問題に関心を持ち、一党一派に偏らない正義を追求する。
- 4.宗教・社会・経済・国際などの諸問題について会員を啓発し積極的に参加させる。
- 5.健全な交友関係を作り出す。
- 6.この協会の国際・地域・区の事業を支援する。

4月例会プログラム

- 強調月間：LT
日時：4月12日(水) 19:00～21:00
場所：東京YMCA西東京コミュニティーセンター
司会：清水 受付：山本、渡辺
ドライバー：野尻
*開会点鐘(会長)
*ワイズソング(全員)
*ゲスト・ビジター紹介(会長)
*聖句朗読(伊佐)
*夕食
*卓話 秋田さん
「新しい会員活動の提示」
*ハッピー・バースデー
*YMCA報告
*にこにこ
*閉会点鐘(会長)
*今月のハッピーバースデー
1日：宮内メネット

3月例会報告

在籍者	13名
出席者	11名
メーキャップ	0名
出席率	85%
ゲスト	1名
ビジター	4名
メネット・コネット	0名
にこにこ	11,696円

テーマ「新しい会員活動の提示」

<卓話内容紹介>

卓話者：秋田 正人(東京YMCA)

誕生日：12月16日

内容：とちぎYMCA時代の例

liby時代の例

杉並の例

とちぎYMCAの会員規定

ナレッジキャピタルとしての会員活動(大阪)

まとめ

キーワードは、開く、交わる、出会う、実験

[強調月間コーナー]

4月：LT

LTとは、リーダーシップ・トレーニング(Leadership Training)の略称です。どのような組織もその指導者の訓練を怠ると方向を誤り、継続性が失われ、活動が停滞します。ワイズメン運動についても例外ではありません。ワイズメンズクラブの全ての役職に就くに当たっては、十分な研修を受けて、任務の遂行に備えなくてはなりません。

リーダーシップを形成するのは、メンバーからの信頼であり、メンバーからの信頼を得るには、担当職務に要求される知識と経験が大切です。また、ワイズダムにおいては、誰もがリーダーになる可能性があり、すべてのメンバーに対しての研修が必要です。東日本区では毎年、次期部長・事業主任準備会、次期クラブ会長・部役員研修会がLT委員会の主催のもとで開催されています。各部でも様々な研修会が行なわれており、また、各クラブでもクラブのニーズに合わせた研修会の開催が望まれます。(TM)

巻頭言

4月になりました

江夏一彰

今号が皆さんのお手元で読まれる頃には、いろんな花が咲いている時季かと思います。また、ご家族をはじめ新たな節目を迎えられた方も多いのではないのでしょうか。

この季節になりますと、私が勤務している病院では大学を卒業し、研修医として約15名の医師が入ってきます。新たな環境に身を置くということは、何歳になっても不安が付き纏うものです。研修が始まって5月の連休から夏頃にかけて、研修医がうつ病となったり、自ら命を落としたりするのも、この時期が多く、一般の方よりも自殺率が高いというデータもあります。理想と現実のギャップによるストレス、同年代の研修医と比較して自分は出来ないという思い込み、将来への漠然とした不安など、メンタル面で落ち込んでしまうのです。私は本来の病理の仕事以外にも、初期研修医(卒業後1、2年目)の担当責任者としても研修医と関わっています。

ある時、女性の研修医から2年間の研修を終える時に、「先生は私にとってお母さんの存在だったのです。わかりますか?」「それは、大抵の先生は勉強しているか、仕事しているか、と聞いてきます。しかし、先生は私の顔を見ると、『ご飯はちゃんと食べているか?ちゃんと休んでいるか?実家には帰っているか?』と必ず聞いてくれました。この台詞どこかで聞いたなと思っていました。この間、実家に帰った時に母親が同じことを言っていました。その時から、私にとって先生は、お母さんの存在でした」と話してくれました。また、別の研修医には病院見学に来た学生に、「私の父です」と紹介してくれる研修医もいます。

この研修医たちも立派な医者となって巣立っていきました。そして、子供を授かり親にもなりました。今度は次の世代に、教える、または育てる側になりました。どうぞ、慌てずにあくまでも相手のペースに合わせて育てて欲しいものです。そして、多くのチャンスを与えて下さい。チャンスを与えることで、その人に存在価値があると思ってもらえることも大切だと考えるからです。失敗することもあるでしょう、しかし、失敗は何かをしているからこそ失敗するのであり、失敗をしないのは何もしていないのと同じです。手を出すのも大切ですが、手を出さないのも大切です。

最後に、「最後の鎌倉文士」と言われた永井龍男氏の「花十日」という随筆の一節で締めくりたいと思います。

染井吉野は下枝から上枝へ上枝へと咲きのぼるが、いずれの桜も仮にこの通りとして、初花からまず十日ばかりが命か。雨の日風の日が間に入るから、それだけ保たないこともある。その樹の真盛りと私がいうのは、五日でもなく七日でもない。一日か、せいぜい二日のごく短い間で、あるいは一日のうちの一時間か二時間のことすらあると考えている。一年の風雪に耐えて開く花だから、ある日ある刻一樹の精が籠められる。

何かを育てることは時間がかかります。しかし、積み重ねて時間を掛けなくては花を咲かす事は出来ません、実(身)を結ぶことも出来ません。花を咲かせる過程を丁寧に、大事に育てたいものです。

§会員の委員会等出席情報

- 1日：西東京YMCAさくらフェス実行委員会(麻生、大輪、山口)
- 4-5日：次期会長・部役員研修会@東山荘(板村、宮内、山口、渡辺)
- 8日：街頭募金(伊佐、板村、野尻、宮内、山口、渡辺)
- 9日：東京サンライズクラブ例会 板村氏卓話(板村、宮内、渡辺)
- 11日：東京八王子クラブチャリティコンサート(麻生、板村、大輪、宮内、山口)
- 19日：東京YMCA総主事就退任式(宮内、山口)
定款改定委員会(宮内、渡辺)
- 25日：健康増進カフェ打合せ(板村、江夏、大輪、山口、渡辺)
ユース事業委員会(渡辺)
- 26日：YMCA同盟総主事就退任式(宮内)
- 28日：東日本区大会実行委員会(板村、宮内、山口、渡辺)
- 31日：さくらフェスティバル前日準備(麻生、板村、清水、野尻、山口)

2017年3月例会報告 「『発達障がい』ってなんだろう」

日時 2月8日(水) 19時～

会場 東京YMCA西東京コミュニティーセンター

司会：麻生 受付：野尻、伊佐 ドライバー：野尻

メンバー：11名、ゲスト：1名、ビジター：4名、ゲスト：0名



3月例会は、東京YMCA西東京コミュニケーションセンターで、発達障がい等に課題を持つ子供たちを対象にしたソーシャルトレーニングクラスの講師である、樋上巧洋(きしめん)氏より“発達障がい”につき経験を交えて話があった。

1. 発達障がいのこれまでと現在 発達障がい幅広く知られようになったのは、米国ではケネディ大統領が最初で、日本では1980年代に使われるようになった。

発達障がいとは、まず第1に知的能力、適応能力に制約があること。第2に自閉症スペクトラムあること。即ちいつも同じことをし、社会的コミュニケーション能力に制約があること。第3に注意力欠陥、多動性、衝動性に制約がある。(ADHD) 第4に学習障がいがあり、読み、書き、数字の概念の特定の理解に難しさを抱える。(LD)

2. 発達障がい者とのかかわり

自分個人の感想として、彼らは“適切に処理して”と言われても、どう処理して良いか解からず、どうせ俺なんて、結局は強いもの勝ちと思ひ、結果として低い自己評価、自尊心の低下からネガティブ思考へと進む。彼らとのかかわりを通じて、それぞれの良いところを理解してあげることが重要である。

3. 発達障がいのこれから

文部省の調査では、6.5%の児童生徒が知的発達に遅れはないものの、学習面または行動面で著しく困難を示すとされている。

発達障がいを取り巻く環境は政府レベルでは外形的には整備されつつあるが、一般的にはネガティブなイメージであり、無関心層が多い。

4. まとめ

発達障がいは、今始まったわけでもなく、本当に増えているかも定かではないが、彼らを受け入れ、彼ら自身が本当に必要なこと(物)を彼ら自身が選択できるような社会となることが重要。

更に、彼らが安心できる場、体験できる場、学習する場が必要である。

質問：ADHDは大人になると症状は変わるか？

多動性、衝動性は良くなると思われる。(経験から学び落ち着くのでは)

(記録：山本 宏)

2016-2017年度次期会長・部役員研修会に参加

板村哲也

日時：3月4日(土) 13時00分～3月5日(日) 12時35分

会場：日本YMCA同盟国際青少年センター東山荘

主催：ワイズメンズクラブ国際協会東日本区

出席者：101名(主催者側+研修者)

次期会長研修会に参加した。盛りだくさんの研修内容で、大変勉強になった。また、研修会を通じて新たな出会いがあり、楽しい機会でもあった。以下は研修会に参加しての所感である。

初日の本会議で栗本治郎次期理事より次期の重点取組目標としてEMC(特にE、新クラブ設立)が伝えられ、EMCについてのパネルディスカッションも行われた。2日目の次期会長グループの分科会では、次期会長としての抱負などにつき出席者全員が自由に発言を行ったが、ここでもEMCがメインテーマとなった。

分科会で意見が多かったのは、経済的負担(会費)、Y'sの知名度、メンバーの増員について。増員に成功しているクラブも一部有ったが、全体としては増員に苦労しているというクラブが多かった。また全体として、現下の増員の必要性、困難性については認識していても、ワイズの将来(中長期)についての危機感は薄く、事務局と温度差がある印象を受けた。全くの個人的観測であるが、危機感の有無は2対8くらいであろうか。

YMCA、Y'sともに知名度が低く、PRが必要との意見が何度も出た。なぜY'sの知名度が低いのかを掘り下げるまでには至らなかったが、私見としては、Y'sのエネルギー(力)のベクトル(大きさと方向)が圧倒的に内向きに大きいためではなかろうか。即ち、個人も組織も限られた時間の中で、費やすエネルギーは組織の維持・運営、クラブ間の交流、YMCA支援など、大きな括りで見ると全て内輪のことのために向けられていて、外界(世間一般)へ向いていない、向いていても少ないことによるのではないかと思う。外界への関心や、意識と力を向けられる余力の有無なども関係が有るかもしれない。知名度が低いと発言された研修者の方々は、私と同じく外向きの力を大きくする必要を感じられていたのではないかと思う。

研修会での所感をもう一つ。組織・団体の維持・運営・管理に携わる人のための研修が制度となっている場合は、その組織・団体が研修費用、時間(日当)、宿泊費、交通費などを負担して研修を行うのが一般的だが、Y'sの場合は異なる。個人負担となっている。これらの個人負担も広義には奉仕活動の一環と考えられなくもないが、それで良いのかどうか。東日本区という広い範囲を対象とした研修であることから、所属クラブの立地条件によっては参加者個人の負担がかなり大きくなる場合もある。また組織運営への関わり方によりメンバー間の個人負担の格差が大きい。Y'sの局面の一つを実感する機会でもあった。

上記研修会には当クラブより、宮内(次々期理事)、山口(LT委員会)、渡辺(次期あずさ部主査)の各ワイズもそれぞれの立場で参加した。

以上

§3月22日の第二例会の報告です。
次期クラブ役員人事決定。

会 長：板村 哲也
副 会 長：大輪 匡史
副 会 長：宮内 友弥
書 記：麻生 由美子
会 計：山口 直樹
直 前 会 長：山口 直樹
Yサ・CS：伊佐 節子

B F：石丸 由理
E M C：山口 直樹
I B C：山本 宏
D B C：宮内 友弥
ブ リ テ ン：渡辺 大輔
広 報：大輪 匡史
ユ ー ス：渡辺 大輔
監 事：清水 彰直
担 当 主 事：出沼 一弥

<西東京YMCA便り>

出沼一弥

▼3月のプログラム報告

3/4	「TeenS」3月例会	昭和記念公園	5名参加
3/8	災害支援募金活動	国立駅周辺(16:00~18:00)	63,358円集まりました
3/26—30	シーハイルキャンプ(対象:年中~小6)	場所:妙高高原ロッジ	29名参加
3/26—30	オール東京 ユーススキーキャンプ(対象:中高生)	場所:妙高高原ロッジ	39名参加

▼4月の主な予定

4/5	中高生グループ活動「TeenS」4月例会
4/9	幼児野外活動「にこにこ」4月例会 小学生野外活動「ロビンソン」4月例会
4/16	軽度発達障がい児 野外活動「Smile」 知的障がい児・者 余暇活動「あおぞら・つばさの会」4月例会
4/23	知的障がい児・者 余暇活動「シャベルズ・いずみの会」4月例会

▼活動紹介

3月26日から4泊5日で行ったスキーキャンプが大きな怪我もなく無事に終わりました。年中(5歳児)から小学6年生を対象にした「シーハイルキャンプ(ディレクター廣瀬)」、中高生対象の「オール東京ユーススキーキャンプ(ディレクター出沼)」共に、東京YMCA妙高高原ロッジに宿泊し、赤倉観光スキー場でスキーレッスンを行いました。例年、春のスキーキャンプは、あたたかく雪も解け、雪の重さと春の陽気を感じながら行っていますが、今年は降雪も多く寒さを感じるほどでした。それでも雪質も冬とは変わることもあり、ゲレンデにポールを立て規制されたコースの中で滑走することを通しスキー技術を向上するレッスンを行いました。4日目にはそのコースでタイムを計る「ポール大会」を実施しましたが、小学生のメンバーも中高生のメンバーもあまり乗り気ではなかったようです。タイムを計測することでタイムの早い遅いが気になったりみんなに見られながら滑走するため恥ずかしさや転倒などの失敗が嫌だだったりします。しかし、タイムの良い悪いでなく、緊張を感じながらもやってみることやちょっとした勇気を出すこと、仲間に見られる恥ずかしさもありますが仲間に見守ってもらっていることなど、お互いがお互いを気に掛け合うことを大切に行っています。緊張を感じるメンバーも滑走が終わってみれば成し遂げた達成感で笑みが自然とこぼれます。ポール大会で良い成績を取りたいと頑張るメンバーは、表彰されたときは涙をして喜んでいました。この春のキャンプもメンバーが多くのかんじ、明日へのチカラとなったキャンプであつたらと願っています。

4月、その他の予定

- | | | | |
|----------|---|------------|-------------------------------|
| • 1~2日 | くにたちさくらフェスティバル | 5月 | |
| • 12日(水) | 第一例会(西東京センター 19:00~) | • 10日(水) | 第一例会 |
| • 14日(金) | さくらフェスティバル評価会(西東京センター 18:30~) | • 13日(土) | たんぼぼYS.C. 15周年記念例会
あずさ部評議会 |
| • 15日(土) | 東日本区大会申し込み締切り | • 14日(日) | オープンフォーラムY |
| • 20日(木) | T.S.T.クラブ記念例会(香港) | • 24日(水) | 第二例会 |
| • 21日(金) | Y.V.L.F.キックオフ | • 27日(土) | 在京クラブ会長会
東京YMCA会員大会 |
| • 22日(土) | フライングディスク大会(富士五湖クラブ)
AYCオリンエンターション(山手センター) | • 6月 3~4日 | 第20回東日本区大会(川越) |
| • 26日(水) | 第二例会(西東京センター 18:30~) | • 7月21~23日 | 第27回アジア大会(タイ・チェンマイ) |
| | | • 29~30日 | 原村例会 |